

- 国際ファッション専門職大学: ファッションクリエイション学科
- 2023年卒業生: 浜名悠
- 留学先: イギリス
- 大学名: Central Saint Martins
- コース名: MA Fashion Womenswear (修士号/大学院)

第5回目校費留学レポート目次

- テクニカルスタジオリーダーによるチュートリアル
- Pre-Collectionに向けて
- Canada Goose プロジェクト
- 10 Corso Como プロジェクト
- V&A / Dover Street Market / Tate Modern

テクニカルスタジオリーダーによるチュートリアル

卒業コレクション前に発表するPre-Collection というものが七月頃にある予定です。それが卒業コレクションに影響するのですが、今月はPre-Collection に向けて技術的な視点でのチュートリアルがありました。一対一形式でチューターの方と過去の作品やポートフォリオを見せて話し合う機会でした。既存の服を再構築して生まれた服、サステイナブルアプローチについて一つ話題が上がりました。例えばテーラードジャケットをザクザクと裁断し、それで再構築しているような服をみるとゾッとすると言っていました。チューターの方の意見を聞いて技術的な視点でみると、複雑なプロセスと歴史あるものに対して敬意の欠けるクリエイションはサステイナブルなアプローチとしても考えてしまうものがあると思えました。

他にはテクニカル・ファイリング・システムを作っておくと良いとアドバイスを受けました。それは自分が熱意を注げる服の機能とテクスチャ、素材の探求を形にしたパーツをどんどん作って集めることです。これは自分がものをどのようにつくっているか将来の自分がみた時にも役立つものとしておすすめされました。

そして、自分は幼少期からの両親の影響もありブラックカルチャーが好きで、ファッションデザイン意外にも楽曲制作やアルバムアートワーク、グラフィックなどにも取り組んでいると話しました。チューターから、私の過去の作品群を見てあなたの服を着ているモデルは、あなたと同じようにそのカルチャーに身を置いている人ですかと質問されました。モデルの多くは自分と繋がりのある友人ではありますが、振り返ってみるとそのカルチャーが私と同じように好きな人達ではありませんでした。チューターは、モデルについても考えるようにアドバイスをくれました。ファッションにおけるモデルは、自分の作りたい世界の住人という考え方を改めて強く意識させてくれました。

Pre-Collectionに向けて



Pre-Collection テクニカルサンプリング

今月は締切に近い様々なプロジェクトを抱えているため、Pre-Collectionの準備はあまり進みませんでした。チュートリアルでもらったアドバイスを受けてテクニカル・ファイリング・システムを作っていました。ここでは頭で考えるのではなく、ものづくりとしての感覚も駆使して手を動かす作業を進めていく予定です。

Canada Goose Project : Phase 1



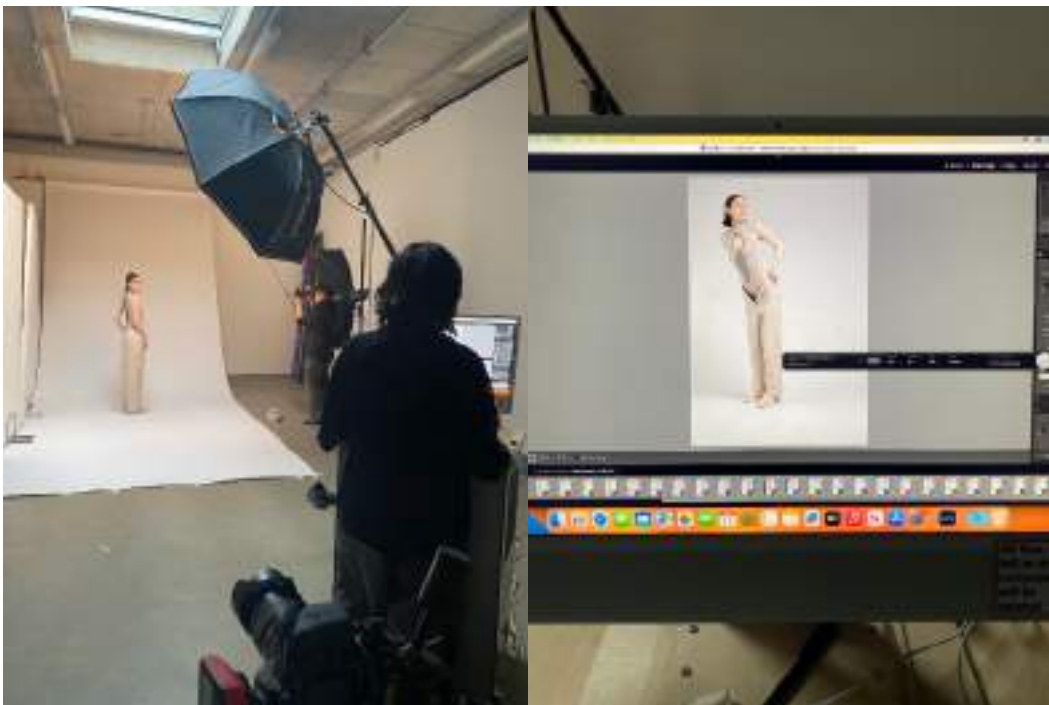
<https://www.instagram.com/p/C4gJ4Tjo8KC/?igsh=MXZ2ZmN2bWYzY3lreA==>







Canada Goose Project MA Material Future によるプロトタイプ



Canada Goose Project 撮影風景

このプロジェクトはCentral Saint Martins とCanada Gooseによるコラボプロジェクトで持続可能なかつクリエイティブなプロダクトデザインが求められています。MA FashionとMA Material Futureのチーム（計4～5名）でデザインを行うものです。今月はチームメイトのMA Material Futureの最終プレゼンテーションがありました。私は彼らの開発したガーリックによる材料を、服として形にするサポートを行いました。彼らは研究でガーリックによる保温効果が反映された素材開発をしたので、人体に熱が必要とされるポイントをマーキングし、その部分の構造に沿ってパターンカッティングを行い、ガーリックの材料を縫い合わせました。そして彼らの撮影にも参加し、プロダクトがよりよく映るための提案をしながら最終プレゼンテーションに向けてアシストしていました。



Canada Goose Project MA Material Future チームメイトによる最終プレゼンテーションディスプレイ

最終プレゼンテーションはMaterial Futureのチームメイト中心のものでしたが、ディスプレイ、パフォーマンス含めて素晴らしいものでした。液晶を縦に使い、生産プロセスとプロジェクトのストーリーリングをシネマティックに映像、音楽で説明、オリジナルの資料の配布など今まで行ってきた研究成果が論理的かつクリエイティブに演出されたものでした。ガーリックの持つ保温性の可能性とプロダクトのアプローチに対して企業側の評価はとて高く、チームメイトも大喜びでした。私も彼らの研究に携わり、このようなプレゼンテーション、プロセスを共有できたことに感謝しています。プレゼンテーションで発表したムービーはこちらのリンクからご覧になれます。<https://www.instagram.com/reel/C4vPjXXtrml/?igsh=YnVuNWV0ajlrejRl>

今後はPhase 2となり、私たちMA Fashionが主体となり彼らの研究成果を活かしたよりクリエイティブなプロダクト、プロトタイプ制作とマーケティングキャンペーンの提案が求められています。彼らの研究を引き続き、良いプロダクトが作れるよう来月もチームメイトと協力していきます。

10・Corso・Como Project

10・corso・como



10・Corso・Como X CSM MA Fashion

10・Corso・ComoとCSMによるコラボレーションプロジェクトが新たに始まりました。10・Corso・Comoは1991年にイタリアのミラノにて設立されたコンセプトストアで、名前の由来は元ガレージの住所となっています。ショップでは世界中のハイブランドからオリジナルのプロダクトを扱い、その他にもギャラリー、レストラン、ホテルなどカルチャーと商業のさまざまな側面を融合させたお店です。私は国際ファッション専門職大学の3年次にイタリアでの海外実習がありました。そこでミラノにてお世話になった方に、この10・Corso・Comoのお店を紹介していただきとても魅力的なお店で何度も訪れた経験があります。この偶然のコラボレーションにとっても驚いています。



10-Corso-Como 店舗: <https://www.instagram.com/10corsocomo?igsh=aWFmNGs1NmVhbDB0>

当初は”Living Magazine”という雑誌を推進する目的でしたがライフスタイル、ファッション、現代アート、カルチャーをトレンドと融合させ、現在ではファッションとデザインの密接な結びつきを促進する「コンセプトストア」のパイオニアとなっています。このお店では人々が単にモノを購入するのではなく、体験するという新しいモデルを築きました。このプロジェクトでは、個人的なスタイル、想像力と独創性を活かし、10-Corso-Comoのロゴを再解釈したユニークな旅行グッズのデザイン提案（3〜6つのジェンダーレスなプロダクト）が求められています。そして選ばれたプロダクトは最終的に店舗で販売される予定です。











Kris Rhusによる作品資料と店舗にて撮影した写真群

象徴的な10・Corso・Comoのロゴ、パターンはアーティストKris Rhusによってデザインされたものです。一連の円と線は、時間と空間のメタファーとして機能しています。

私は大学生の時に撮影した店内のディスプレイ、雰囲気、プロダクトの配置などの画像を印刷し、壁一面に貼って当初の記憶が視覚的に見える状態でデザインを考える環境を作ることから始めました。そして、ロゴはKris Rhusによるデザインなので、彼の絵画作品、彫刻、陶器や照明など他の作品のリサーチも行い彼の思考やアティチュードに自分と繋がる部分があるか考えていました。

あくまでロゴを使ったデザインが求められているのでこの企業の過去のコラボレーションプロジェクト（COMME des GARÇONS, Doublet, Sacai, MM6など）もリサーチし、店舗で販売されることを考えて、プロダクトの生産工程、ロゴの使い方などデザインのバランスを観察していました。



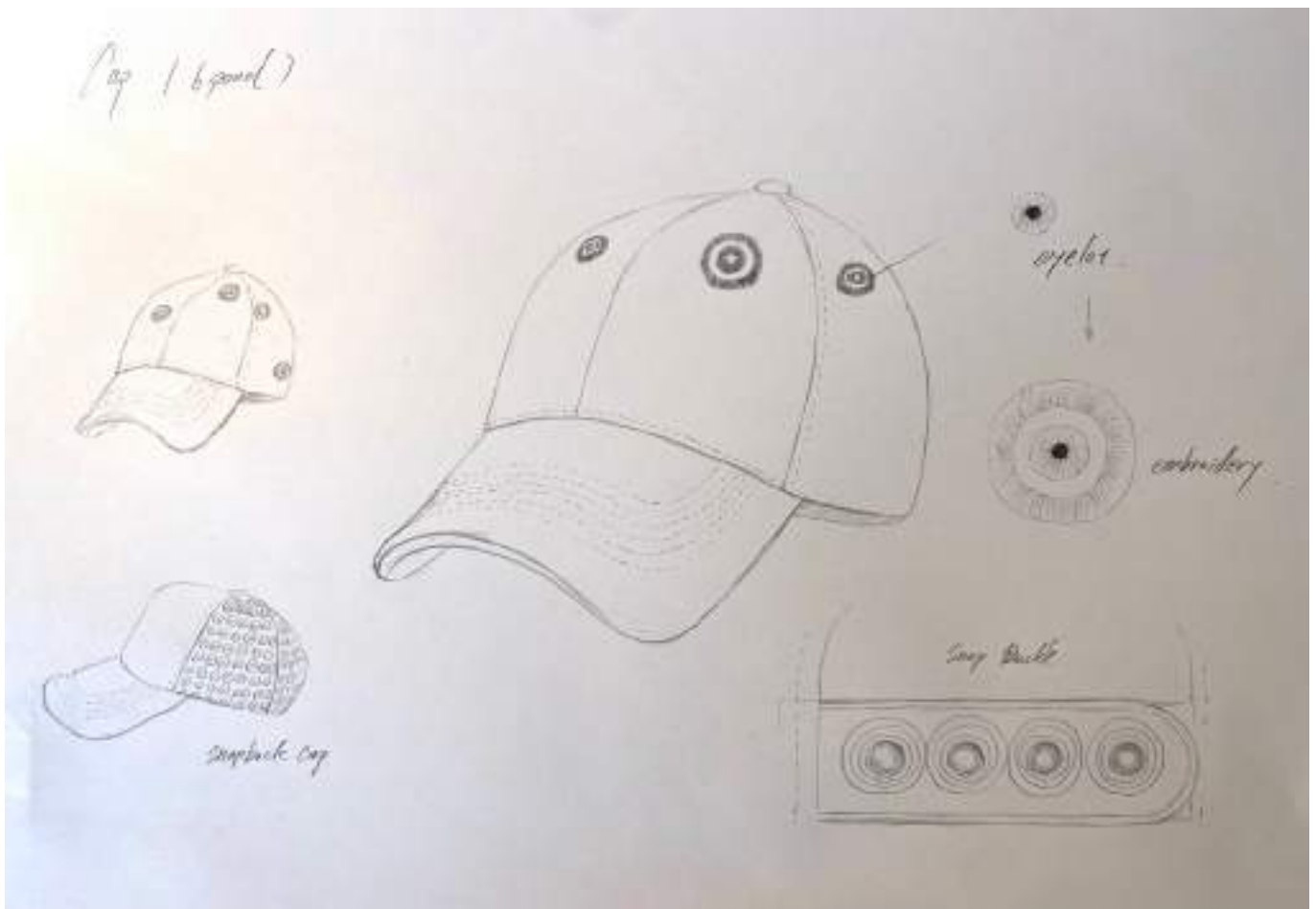
10-Corso-Como Air Pillow デザインプロセス

そして私は様々な資料とリサーチを通して、思いつくデザインのラフスケッチを始めました。最終的にはスケッチでのデザイン提案が求められていますが、プロトタイプを作ることによって機能性や生産プロセスを自分自身が理解することができると思ったので、数あるデザインの中からエア枕の制作からスタートしました。



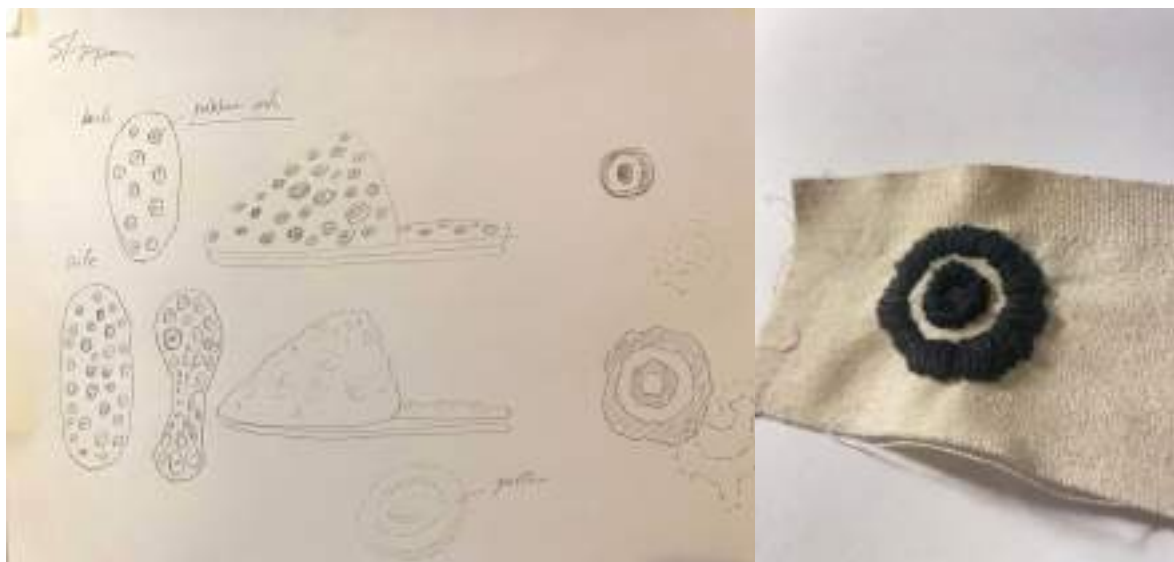
10・Corso・Como Air Pillowプロトタイプ

このエア枕は空港や飛行機内、乗り物の中で睡眠をとる時に役立つ旅行グッズです。自分自身も長時間の乗り物移動の時によく使うもので、簡単に携帯できる機能性が好みの想いの強いプロダクトです。このエア枕の形態は首周りにフィットするように作られていますが10・Corso・Comoのロゴに近いものを感じたため、この枕の機能とブランドロゴが融合したデザインを試みました。10・Corso・Comoのロゴは、計算された確なバランスで配置されたロゴデザインではなく、手書きによるものなのでパターンカッティングにもそのアティチュードを取り入れました。枕の形態が現れる部分は従来のプロダクトと同じ機械的で美しい曲線パターンですが、黒の切り替え部分のパターンは筆のストロークをインスピレーションとしているため、手書きのロゴをベクター化した歪みのあるシェイプをそのままパターンに反映させました。首周りに使うものという機能性と筆によって描かれているロゴという意味からマテリアルは柔らかいファーを選んでいました。このファーのマテリアルによって最終的なエア枕の形態はよりロゴのアウトライン（筆のストローク、筆のぶれ）のようなランダムな形へと変化します。



10•Corso•Como Cap ラフスケッチ

また他にもはキャップのデザインを進めています。これはキャップによく見られるアイレット（キャップのクラウン部分が被った時に膨らまず頭にフィットするように付けられたもの、また通気性を確保する機能がある）の空気穴を10•Corso•Comoのロゴでボタンホールのように刺繍したデザインで、こちらもエア枕と同じように機能とロゴの融合を試んでいます。他にもメッセンジャーバッグやポーチなどのデザインも行う予定で、シルクスクリーン、刺繍など完結できる簡易的なものから、よりクリエイティブなパターンカットティングなど生産工程がやや複雑なものまでバリエーションをもって企業へ提案できたらと思っています。



10•Corso•Como Cap ラフスケッチ、テクニックの研究

V&A / Dover Street Market / Tate Modern



V&A Museum

休日には、美術館や博物館、コンセプトストアなどのお店を友人たちと巡りました。

V&A (Victoria and Albert) Museum は世界中の伝統工芸品、彫刻、建築、絵画、衣服など多岐にわたる400万点の膨大なコレクションを持ったイギリスの国立博物館です。ここでは、世界各国のアートやデザインの歴史を学びつつ自身のファッションデザインにも繋がる要素を探していました。そしてコレクションに向けてのテクニカル・ファイリング・システムにも通ずるあらゆるもののディテールや構造も同時に観察していました。日本の展示室では江戸時代から明治時代の工芸品が多数収蔵されていました。各国の生み出されたものと比べると精密で繊細なものが多く、改めて日本のもつ技術と手仕事は世界に誇るものがあると思いました。0~4階まである建物ですが、0階までしか見て周れなかったのが、また次回も訪れる予定です。このような素晴らしい博物館に無料で入場できるイギリスの環境に改めて驚きました。







Dover Street Market London

Dover Street Market は川久保玲による世界7カ国に展開するセレクトショップです。Dover Street Market Londonは、ロンドンに来てから何度も訪れているショップです。しかし、毎回新たな発見があるので、デザインやっている人間としてどのようなものが店舗に売られているのか定期的に見るようにしています。ここでは服のディテール、仕上げ、素材の扱いについて観察し、自身の制作資料として写真に納めています。



Tate Modern

Tate Modernは国立の近現代美術館です。こちらでも無料で入場できる美術館です。10階建ての建物で館内にはレストラン、カフェ、バーなどもあります。展示室は通常ミュージアムのような時代やムーブメントで分かれている感じではなく、独特なキュレート法で展示されているため魅力的な空間となっています。また一階はThe Tankと呼ばれる20世紀のモダン建築らしいコンクリート打ちっぱなしの空間が広がっていました。全てのフロアを周りきれなかったのですがこちらもまた次回訪れる予定です。

今月を振り返って



10・Corso・Como制作風景: <https://www.instagram.com/10corsocomo?igsh=aWFmNGs1NmVhbDB0>

今月は学校の授業が終わり、春休みの期間でした。しかし、3つほど大きなプロジェクトを進めているためほとんど制作に時間を使って過ごしました。休日は友人と過ごしたり、日本からも国際ファッション専門職大学の先生や、生徒がロンドンに訪れていたため一緒に街を歩き回りました。今月も有意義に過ごすことができました。来月はCanada Gooseと10・Corso・Comoのプロジェクトの締め切りがあるのでプレゼンテーションに向けて準備を進める予定です。

以上3月分のレポートとさせていただきます。